

震災により新しく芽生えた芸術文化活動等について

【県】

1 芸術・文化活動への支援

(1) 被災地芸術文化団体活動用具復旧支援事業の実施〔H8年度のみ〕

震災により破損、損失した芸術文化団体の活動用具（舞台道具、衣装、楽器、画材等）の修復、購入に伴う経費を助成することにより、被災地の芸術文化団体の活動を支援し、阪神・淡路大震災からの地域文化の復興をめざし実施した。

・ 69件 6,366千円

(2) 被災地芸術文化活動補助事業の実施〔H8年度～〕

被災地の芸術文化団体等の県内での活動を補助することにより、被災地の芸術文化団体等の活動の範囲を広げ、活動の活性化を図り、広く県民に芸術文化鑑賞の機会を提供するとともに、被災地の文化の復興はもとより、県内の芸術文化の振興を図っている。

・ H8年度 165件 32,942千円

・ H9年度 197件 39,703千円

・ H10年度 241件 54,591千円

計 603件 127,236千円

2 芸術・文化鑑賞機会の提供

(1) 県民芸術劇場の開催〔被災地での公演のみ抜粋〕

県内各地で、小・中・高校生、一般を対象に、優れた芸術鑑賞の機会を提供することにより、県内の芸術文化団体等の育成、公立文化施設の活性化ならびに県民文化の高揚を図ることを目的に開催しているが、震災以後被災地においても、復興の気運を盛り上げる必要があるため、特に学校公演の数を増加して開催している。

・ H7年度 一般公演 4件/37 3,474人

学校公演 31件/83 20,935人

・ H8年度 一般公演 5件/41 2,654人

学校公演 33件/86 22,535人

・ H9年度 一般公演 4件/39 1,867人

学校公演 48件/106 29,528人

・ H10年度 一般公演 4件/69 1,339人

学校公演 49件/108 26,403人

計 一般公演 17件 9,334人

学校公演 161件 99,401人

(2) アスペンミュージックフェスティバル兵庫の開催〔H8年度のみ〕

被災地の芸術文化のより一層の振興を図り、世界に開かれた文化豊かな地域づくりをめざして、被災地で最高レベルの音楽教育の機会とコンサートの鑑賞機会を提供した。

・ 開催日 平成9年8月27日（水）

・ 会場等 兵庫県公館（入場者数：396人）

神戸文化ホール（入場者数：1,187人）

(3) ピッコロ劇団被災地激励活動の実施〔H8年度のみ〕

平成6年4月に全国初の県立劇団として設立された「県立ピッコロ劇団」は、震災で傷ついた被災者の心を癒すため、2度にわたる被災地激励活動を実施した。

・ 第1次（H7. 2.11～4. 8） 52公演（5市5町） 9,685人

・ 第2次（H7.10. 7～11.29） 14公演（6市2町） 7,163人

計 66公演（11市7町） 16,848人

(4) 阪神・淡路大震災メモリアルコンサートの開催〔H7年度～〕

震災のあった1月17日にコンサートを開催することにより、阪神・淡路大震災を記憶にとどめ、犠牲者に追悼の意を表すとともに、復興に向けての希望の灯火とするため実施している。

・ H7年度（神戸、神戸、神戸） 神戸国際会館 6,500人

・ H8年度（神戸、兵庫、兵庫） 兵庫県公館 5,12人

・ H9年度（神戸、神戸、神戸） " 4,52人

・ H10年度（神戸、神戸、神戸） " 4,78人

計 7,942人

【文化協会】

1 鑑賞事業の開催

(1) フェニックスひょうご美術展の開催〔H7年度のみ実施〕

大震災後の芸術文化のいち早い立ち直りを目指した、県域美術団体の美術展を開催することにより、被災地の人々の心に安らぎを与えるとともに、県民に優れた芸術文化の鑑賞の場の提供と、県民自らの創作活動の促進を図るため、県民アートギャラリーで実施した。

名 称	会 期	日数	出展者・出品数	入場者数
兵庫県美術家同盟会務委員展	H7 4/ 1 ~4/ 9	9	28人・28点	7 3 5人
兵庫県工芸美術作家協会新作展	4/12 ~4/16	5	24人・35点	3 4 0人
兵庫県日本画家連盟役員展	4/19 ~4/23	5	20人・20点	5 6 1人
兵庫県写真作家協会委員展	5/ 9 ~5/14	6	12人・24点	5 2 0人
兵庫県書作家協会代表作家展	5/16 ~5/21	6	28人・28点	4 8 1人
兵庫県いけばな協会展	5/29 ~5/31	3	13人・13点	7 4 0人
兵庫県婦人手工芸協会会員展	6/20 ~6/25	6	18人・18点	7 1 9人
兵庫県彫刻家連盟会員展	6/27 ~7/ 2	6	18人・24点	4 8 1人
中国女流画家劉蕾展	7/ 4 ~7/ 9	6	— 31点	5 1 6人
計	—	5 2	161人・221点	5, 0 9 3人

(2) コンサート“復興の街へ”の開催〔H7年度のみ実施〕

阪神・淡路大震災で被災した人々を励ますため、コンサート“復興の街へ”実行委員会との共催により、音楽を中心とした文化イベントを実施した。

名 称	開催月日	会 場	入場者数
鮫島有美子コンサート	H7. 5. 16	神戸朝日ホール(神戸)	5 0 2人
	5. 18	しづかホール(姫路)	9 3 0人
辻久子と神戸市室内台奏団演奏会	6. 22	7thカイホホール(尼崎)	8 4 2人
淡路人形芝居	7. 6	県民小劇場(神戸)	3 7 0人
オルヴェルとその仲間たち演奏会	8. 10	7thカイホホール(伊丹)	4 1 5人
フルーツとハーブの夕べ	9. 27	兵庫県公館(神戸)	6 1 4人
福田道一&明治音楽ギター・デュオ・リサイタル	10. 14	ベガ・ホール(宝塚)	4 1 2人
邦楽の夕べ	11. 10	明石市立市民会館(明石)	5 1 0人
島文二&三澤佳と三浦幸恵文芸音楽会	12. 17	しづかホール(姫路)	8 0 3人
岩崎淑とソリストたち	H8. 1. 15	神戸文化中ホール(神戸)	9 0 5人
大阪フィルハーモニー交響楽団演奏会	3. 13	神戸文化大ホール(神戸)	2, 0 7 0人
計	—	11会場	8, 3 7 3人

【民間】

1 「アート・エイド・神戸」の活動（活動記録、復興誌第1巻：P180~183、第2巻：99~101 第3巻：134~136）

(1) 経緯

H7. 2. 18、「神戸文化復興基金」設立、同基金の運営管理を行う組織として「アート・エイド・神戸実行委員会」を発足

(2) 目的

震災で被災された方々を支援するために、芸術家やアーティストとして自らの活動を通して人々に勇気と慰めを与え、作品の販売や発表活動による売上や収益を復興に役立てる。

(2) 事業計画

- | | |
|------------------|---------------------|
| ① 被災芸術家への緊急支援 | ⑤ 震災後の芸術文化活動への支援・助成 |
| ② チャリティー美術展の開催 | ⑥ 工事現場仮囲いへの壁画制作 |
| ③ チャリティーコンサートの開催 | ⑦ 神戸の文化復興に関するあらゆる事項 |
| ④ 震災を記録する出版物の刊行 | |

※ 活動のウエイトは、今、自分たちで何かやりたいという人たちの相談に乗り、支援する方向に移ってきている。

(3) 評価等

- ① 第26回ブルーメール賞を受賞（音楽部門）
- ② 資金面で寄附の減少という問題も起こっているが、反面、助成先の文化団体が活動で得た収益を「お返しに」と寄附する「リサイクル」が行われるようになった。

2 「阪神文化復興会議」が発足（文化情報誌「風速3ノット」）

H7. 12. 7、米山俊直（代表幹事）、小松左京（幹事）、山崎正和（幹事）の3人が発起人となり、また、河内厚郎氏が事務局長となって「阪神文化復興会」が発足した。

(1) 目的

より多くの人々が文化を楽しむことができるよう、ソフトを重視した阪神間文化の再生と新生に力を尽くす。

(2) 事業内容

- ・ 文化情報誌「風速3ノット」の発行
- ・ 阪神間の豊かな居住文化を思い起こさせるような講演会の開催
- ・ イベントの開催

3 兵庫県現代詩協会が平成9年11月23日に誕生（復興誌第3巻：P131）

会長：安水稔和、会員数：212名

4 「メールアート美術館」がスタート（復興誌第1巻：P188）

「具体」のメンバーであった嶋本昭三氏が中心となり、郵便物を芸術作品とするメールアートで、震災をテーマに作品をつくるよう呼びかけ、30か国から200点の作品を集めた。また、インターネットでの「メールアート美術館」もスタートさせるなど、新しい芸術運動に意欲を燃やしている。

5 「神戸“夢”音楽祭2008-We Love Kobe 98」が開かれる（復興誌第3巻：P140）

震災3年目を迎えた平成10年1月18日、ワールド記念ホールで音楽祭が開催された。この音楽祭は震災の記憶を風化させないように2008年まで継続していこうというものである。

第1回の出演アーティストは、中西圭三、米倉利紀、渡辺真知子、岩崎宏美、河合美智子、南こうせつ、紙ふうせん、加山雄三らの豪華メンバーで客席を盛り上げた。

6 鎮魂組曲が誕生

(1) 鎮魂組曲「1995年1月17日」（復興誌第2巻：P96）

大震災の惨状と、立ち上がろうとする人々を表現したもので、「震災をテーマにしたうたを、いまこそ歌うべきだ」と提言した森村誠一氏が作詞、池部晋一郎氏が作曲するという豪華版。

第1章は地震の瞬間を描いた「激震」ではじまり、「慟哭」「手紙」「私の息子」「南っこ新聞」などと続き、第8章「わが街よ永遠に」で「私たちはいま、誓いと再生の歌をうたいます」と締めくくっている。平成8年4月7日、神戸文化ホールで神戸市役所センター合唱団が台唱、約2,000人の聴衆の感動を呼んだ。

(2) 組曲「神戸の誓」（復興誌第3巻：P139）

組曲を作ったのは神戸市立須磨高校の田尻彰男教諭、画家の三原泰治氏が詩を追加し、五楽章からなる組曲が完成した。平成9年10月4日、神戸市立須磨高校の文化祭で披露された。

7 多くの震災ソング等がうたわれる（復興誌第2巻：P96）

- ・ 阿久悠氏は「美し都」で「がんばろや」を作詞
- ・ 平松愛理氏は「南町から」で「きっときっと強い町になっていく故郷へ」をうたう。
- ・ 嘉門達夫氏は「怒りのグルーブ震災編」で神戸の街を表現
- ・ クラシック音楽では「日本テレマン協会」が被災地無料慰問コンサートを、また被災地に住む演奏家たちが3年限定のアンサンブルを編成し、慰問演奏会を実施した。さらにジャズではライブコンサートWON BOARD KOBEが開催された。（芸術文化被害状況調査：P17）

8 演劇活動も活発に行われた（復興誌第2巻：P97）

- ・ 県立長田高校は50年後の神戸をテーマにした創作劇「神木」を上演
- ・ アマチュア合唱団TERRAは復興の思いをミュージカル「ビリーブ・ミー」で初演
- ・ 前田郁子氏（神戸を中心に活躍中の女優）は原作の朗読劇「青い空に絵をかこう」を上演
- ・ 劇団「道化座」による震災発生の日の神戸新聞の奮闘ぶりを下敷きとして震災を問う創作劇「0号発刊す」を東京で上演（復興誌第3巻：P136）
- ・ 大阪の劇団南河内万歳一座は被災地を舞台にした劇を上演（復興誌第3巻：P140）
- ・ 富山のアマチュア劇団雪ん子シニアがミュージカル「ほたる－阪神・淡路大震災に捧ぐ」を上演（復興誌第3巻：P140）
- ・ このほか、ボランティアグループが中心になった一人芝居「光跡」、県立西宮高校教諭の福田成樹氏が書いたミュージカル「A Well Known Strangwr」、県立宝塚高校演劇部のミュージカル「いのち美しく－あの日から十五年」などがある。（復興誌第3巻：P141）

9 1000人のチェロ・コンサートの開催（震災復興関連イベント等の事例収集と分析に関する調査研究報告書：P164、171）

(1) 趣 旨

阪神・淡路大震災の犠牲者への追悼と、被災地の復興と平和への祈りを込めるとともに、演奏を通じて被災者を励ますことを目的に開催された。（同コンサートは、R・ヴァインツハイマー氏（ベルリンフィル）が発案、松本巧氏（神戸市のチェリスト）が協力し実現）

(2) 開催日・会場

平成10年11月29日・神戸ワールド記念ホール

(3) 演奏曲目 指揮：榊山和明

チェロの為のREQUIEM（三枝成彰氏作曲）、鳥の歌など12曲を演奏

(4) 参加者

演奏者＝1,013人（8か国、4～88歳）、観客＝約3,400人

10 「阪神・淡路震災復興支援10年委員会」の活動（復興誌第2巻：P101、第3巻：137）

(1) 結成年月日 平成7年7月19日

(2) 趣旨

大震災からの復興を願い、この地域の人々への精神的な支援を長期にわたって続けるため、自分たちのできる範囲で復興のシンボルとなるような事業を総合的にバックアップし、復興をめざした取り組みを支援していく。

(3) 活動内容

時とともに被災地への関心が運れていく中で、ますます長期的な精神的な支援が必要であるとの観点から、文化再生運動や被災者救援事業、共有財産のある街づくり事業など5つの部門で活動を展開している。

① 彫刻のある街角づくり

- ・ 川口ローザール（佐野の彫刻）が制作したブロンズのオブジェ「再生」を県に贈る。
- ・ コスタティノ・ボラ（EITの彫刻）の彫刻作品、セザールの作品も県に贈る。

② 文化復興支援フォーラムの開催

③ 震災3周年復興支援 心に歌声を '98ニューイヤーコンサートの開催

11 県外・海外での様々な活動（復興誌第2巻：P104～106）

県外

- ・ 宝塚のミュージカル劇団「ミュージカル・カンパニーQZ」が「DIE-死ぬということ」を上演（東京）
 - ・ 県立ピッコロ劇団が「地域劇団東京演劇祭」に参加（東京）
 - ・ 文化都市にする会は「50年目の戦場・神戸」を上演（東京）
 - ・ 県立神戸高校演劇部は全国高校総合文化祭で、震災をテーマにした「青い街」を上演（札幌）
- 海外
- ・ 神戸教員合唱団はウィーンで開催された音楽祭で組曲「阪神大震災」を披露
 - ・ 日豪のアマチュア音楽家による「第九交響曲（合唱つき）」の演奏がシドニーで開催
 - ・ 日米の若手演奏家たちがニューヨークでチャリティーコンサートを開催
 - ・ 今井ひさ子氏（染色家）らの「染色二人展」がプラハの3会場で開催
 - ・ 小林政夫氏（カメラマン）の「大震災写真展」がニューヨークで開催

12 その他の活動

- ・ 長田では渥美清を偲んだ「寅さん地蔵」の建立計画を推進（復興誌第3巻：P142）
- ・ 神戸ルミナリエは、地方自治法施行50周年を記念した第1回ふるさとイベント大賞の特別賞を受賞（復興誌第3巻：P142）
- ・ 山下優子氏（北区）が震災体験をモチーフにした青春小説「向日葵の咲いた日」が第5回ティーンズハート大賞を受賞（復興誌第3巻：P143）
- ・ 神戸オリエンタル劇場は3月1日から4月23日まで「KOBE AID」と銘打って、劇場を無料提供（芸術文化被害状況調査：P18）
- ・ 兵庫銀行では近美の収蔵品を基にした展覧会を、神戸阪急ミュージアムでは被災地の5つの美術館が協力し合った名作展等を開催（芸術文化被害状況調査：P18）